2020.04.06

「学びの共同体」を始めるために

１　毎時間の授業の「目標（ねらい）」と「流れ」だけは明確にする

２　「共有の課題」と「ジャンプの課題」を常に意識した授業をデザインする

３　生徒の授業に臨む姿勢をしっかりとさせる
- **チャイムと同時に授業が始められるように**
- **服装の乱れがないか、挨拶はきちんと行っているか**
- **教科書等や課題の準備はできているか　　etc**

４　教室はコの字型を保ち、グループは男女市松模様の３～４人で構成することが望ましい
※まずは、コの字型の配置で授業をはじめる
※4 人グループはどの教科も同じメンバーで構成（時間のロスを防ぐ）

５　１時間内に１回はグループ（３～４人）での活動を取り入れる

６　グループ活動中、参加できていない生徒には、声をかけ指導する
→但し、注意等は１分以内にとどめ、全体の進捗に進む

７　グループ活動は、互いに「聴き合う」ことを奨励する。
※疑問点はどんどん仲間に質問することを奨励
また、訊かれた生徒は、面倒くさがらずに教えてあげる関係。
→グループで解決できない場合には、教師に頼ることも奨励

８　グループ活動が停滞し始めた場合は、コの字型に戻す
※常にグループである必要はなく、状況に応じて臨機応変に対応

９　生徒の学びの様子を細かく観察し、大切にする。
※一見雑談の様に見えても、学びが進捗している様子を見取る。
（もちろん表面的な「偽学び」も見取れるよう観察力を上げる）

10　「授業研究会」は、教師の指導法を問うのではなく、生徒の学びに集中した協議を行う
※そのために、研究会時はクラスの座席表を準備する
※生徒の学びの状況を教師たちで共有する（＝学びの共同体）

１「授業デザイン」票をできるだけ作成する→通常の指導案のように詳細の必要なし

２「ジャンプ課題」は、毎時間の設定が難しければ、少なくとも単元ごとには設定すること。

３授業を受ける基本的態度が何より重要

４当面は、一斉授業と同じ講義内容の時も、コの字型の机配置で行う。間の空間に教師ができるだけ入り込みながら説明をすることが重要。（生徒同士の顔が見え合う状況も大切）

６参加できていない生徒に必要以上に留まらない。しかし、見放してはいないというサインを送るため、何らかの参加への促しは必要→数時間後の参加意欲につながるはず。

７飽くまでも、「個人」の力を伸ばすためのグループ学習である→グループとしての達成度が問題なのではない。個人の考えがしっかりしたか否かが問題。

９そのための教師の立ち位置やグループへの介助の在り方（教師の「居方」が重要になってくる。
また生徒個人の考えを
＜聴く→つなぐ→もどす→ケアする＞の４連法を意識する